

【Example 3.1】

次の定積分を計算せよ.

$$I = \int_{-1}^3 |x(x-1)(x-2)| dx$$

Point

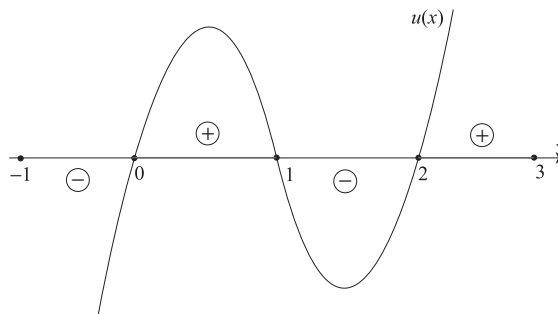
被積分関数に絶対値を含む積分;

$$u(x) \geq 0 \implies \int_a^b |u(x)| dx = \int_a^b u(x) dx \quad u(x) \leq 0 \implies \int_a^b |u(x)| dx = -\int_a^b u(x) dx$$

【解説】

$u(x) = x(x-1)(x-2) = x^3 - 3x^2 + 2x$ と置き、
 $u(x)$ のグラフからその符号を調べて、

$$I = \int_{-1}^0 \{-u(x)\} dx + \int_0^1 u(x) dx + \int_1^2 \{-u(x)\} dx + \int_2^3 u(x) dx \quad \dots\dots(1.1)$$



ここで、 $U(x) = \frac{1}{4}x^4 - x^3 + x^2$ と表せば、

$$I = -[U(x)]_{-1}^0 + [U(x)]_0^1 - [U(x)]_1^2 + [U(x)]_2^3 = U(-1) + 2U(1) - 2U(2) + U(3) \quad (\because U(0) = 0) \quad \dots\dots(1.2)$$

ここで、

$$U(-1) = \frac{9}{4}, \quad U(1) = \frac{1}{4}, \quad U(2) = 0, \quad U(3) = \frac{9}{4} \quad \dots\dots(1.3)$$

であるから、

$$I = \frac{9}{4} + 2 \times \frac{1}{4} - 2 \times 0 + \frac{9}{4} = 5 \quad \dots\dots(1.4)$$

*やや高度ではあるが、… 絶対値を含む積分に関する次の定理は有名である。

Theorem

x の関数

$$f(x) = \int_a^b |u(t) - u(x)| dt$$

は、 $x = \frac{a+b}{2}$ において最小値をとる。

ここで、 $u(x)$ は $a \leq x \leq b$ において単調な関数とする。

【Review 3.1.1】 2002 岩手大

実数 a が正の範囲を動くとき,

$$I(a) = \int_0^a \{6x|x+a-1|-2\} dx$$

を最小にする a の値とその最小値を求めよ.

[答] $a = \frac{2}{3}$, 最小値: $-\frac{10}{9}$

【Review 3.1.2】 2003 大阪市大

実数 a が $a \geq 0$ の範囲を動くとき,

$$I(a) = \int_0^1 |x^2 - 2(a+1)x + a^2 + 2a| dx$$

を最小にする a の値を求めよ.

[答] $a = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$

【Review 3.1.3】

実数 a が正の範囲を動くとき,

$$I(a) = \int_0^1 |x^3 + ax - 1| dx$$

を最小にする a の値を求めよ.

[答] $a = \sqrt{2} - \frac{1}{2}$

【Example 3.2】 94 東大

$0 < c < 1$ とする.

関数 $u(x) = -4x^3 + 3x^2$ に対して,

$$u_1(x) = u(x) + \int_0^c u(t) dt \quad \dots\dots(2.1)$$

と置き, $u_2(x), u_3(x), \dots$ を順次

$$u_{n+1}(x) = u(x) + \int_0^c u_n(t) dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.2)$$

によって定義するとき, $u_n(x)$ を求めよ.

Point

$$\text{定数型の積分方程式} \implies \int_a^b (\dots \text{未知関数} \dots) = \text{定数 と置く}$$

【解説】

数列 $\{a_n\}$ を次のように定義する.

$$a_n = \int_0^c u_n(t) dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.3)$$

このとき, (2.2), (2.3) により,

$$u_{n+1}(x) = u(x) + a_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.4)$$

であるから,

$$\begin{aligned} a_{n+1} &= \int_0^c u_{n+1}(t) dt = \int_0^c \{u(t) + a_n\} dt = \left[-t^4 + t^3 + a_n t\right]_0^c = c a_n + c^3(1-c) \\ \therefore a_{n+1} &= c a_n + c^3(1-c) \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.5) \end{aligned}$$

漸化式 (2.5) は,

$$a_{n+1} - c^3 = c(a_n - c^3) \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.6)$$

と同値変形できるので,

$$a_n - c^3 = c^{n-1}(a_1 - c^3) \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.7)$$

ここで,

$$\begin{aligned} a_1 &= \int_0^c u_1(t) dt = \int_0^c \{u(t) + c^3(1-c)\} dt \\ &= \left[t^3(1-t) + c^3(1-c)t\right]_0^c = c^3(1-c) + c^4(1-c) = c^3 - c^5 \quad \dots\dots(2.8) \end{aligned}$$

(2.8) を (2.7) に代入して,

$$a_n = c^{n-1}(-c^5) + c^3 = c^3(1 - c^{n+1}) \quad \dots\dots(2.9)$$

$$\therefore u_n(x) = -4x^3 + 3x^2 + c^3(1 - c^n) \quad \dots\dots(2.10)$$

Comment

被積分関数が n に依存するので, 定積分の値も n に依存することに注意して貰いたい.
 解法の核心は, 定積分 = 定数に尽きるが, 計算の結果, 得られた方程式や漸化式が解けるか否かは別の問題である.

【Review 3.2.1】 98 京大

関数 $u_n(x)$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) は,

$$u_1(x) = 4x^2 + 1, \quad u_{n+1}(x) = \int_0^1 \{3x^2 t u_n'(t) + 3u_n(t)\} dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって帰納的に定義されている. $u_n(x)$ を求めよ.

[答] $u_n(x) = 2^{n+1}x^2 + 5 \cdot 3^{n-1} - 2^{n+1}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$)

【Review 3.2.2】

恒等的に 0 でない整式 $u(x)$ と実数 t が

$$u(x) = t \int_{-1}^1 (6x^2 + 15y^2)u(y) dy$$

を満たすとき, t の値と整式 $u(x)$ を求めよ.

[答] $t = \frac{1}{16}, -\frac{1}{2}, u(x) = k(x^2 + 1), k(2x^2 - 1)$ ($k \neq 0$)

【Example 3.3】

恒等的に 0 でない整式 $f(x)$ が,

$$\left(\int_0^x f(t) dt\right)^2 = x^3 f(x) \quad \dots\dots(3.1)$$

を満たすとき, $f(x)$ を求めよ.

Point

整関数型の積分方程式 \implies 未知関数の次数を決定

【解説】

$f(x)$ は整式なので,

$$f(x) = a_n x^n + a_{n-1} x^{n-1} + \dots + a_1 x + a_0 \quad (a_n \neq 0) \quad \dots\dots(3.2)$$

と置ける. これを (3.1) に戻して最高次の係数を比較すると,

$$\left(\frac{1}{n+1} a_n x^{n+1}\right)^2 = x^3 \times a_n x^n \quad \dots\dots(3.3)$$

$a_n \neq 0$ であるから, (3.3) 両辺の次数に関して,

$$2(n+1) = n+3 \quad \therefore n = 1 \quad \dots\dots(3.4)$$

このとき,

$$\left(\frac{1}{2} a_1\right)^2 = a_1 \quad \therefore a_1 = 4 \quad \dots\dots(3.5)$$

(3.2), (3.4), (3.5) より, $f(x) = 4x + c$ と置けるので,

$$\left(\int_0^x (4t + c) dt\right)^2 = x^3(4x + c) \iff (2x^2 + cx)^2 = x^3(4x + c) \quad \dots\dots(3.6)$$

(3.6) 両辺の係数比較をして, $c = 0$ を得るので,

$$f(x) = 4x \quad \dots\dots(3.7)$$

Comment

本問では整式 (= 多項式 = 整関数) という条件が決定的である. 無数の関数の中から「整式だけを考えればよい」からである. その意味で, これは大変強い制約条件である. 文系の人には, 関数と言えばすべて整式を思い浮かべるかも知れないが, それ故, この条件の重要性を見落としがちなので注意してほしい. 理系の人には, 微分方程式を作り, それを解く問題 (解を整関数に限る必要はない) とまったく異なる解き方であることを認識せよ. また, このタイプの問題は, 与えられた方程式の形に応じて下の微分積分学の基本定理を用いると計算が大幅に効率化される.

Theorem

$$\frac{d}{dx} \int_a^x u(t) dt = u(x), \quad \frac{d}{dx} \int_a^{v(x)} u(t) dt = u(v(x)) \cdot v'(x)$$

【Review 3.3.1】 97 東北大

次の等式を満たす連続関数 $u(x)$ を求めよ.

$$\int_0^x \{u(t) - t + 1\} dt = \int_{-1}^1 (x-t)^3 u(t) dt + \frac{2}{25}$$

[答] $u(x) = \frac{30}{31}x^2 + \frac{1}{5}x - \frac{5}{31}$

【Review 3.3.2】

恒等的に 0 でない整式 $f(x)$ が

$$\int_0^{3x} (t-1)f''(t) dt = 54f(x)$$

を満たすとき, $f(x)$ をすべて求めよ.

[答] $f(x) = k(15x^3 - 9x^2 + x) (k \neq 0)$

【Review 3.3.3】 93 京大

$f(x)$ を x の整式, α を定数とする.

$$\int_x^{x+1} f(t) dt = \alpha f(x)$$

がすべての実数 x で成り立つとき, $f(x)$ は定数であることを示せ.

[証明略]

【Review 3.3.4】 99 関西大

整式の列 $\{u_n(x)\}$ が

$$u_1(x) = 1, \quad u_{n+1}(x) = 1 + xu_n(x) + \int_0^x u_n(t) dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たすとき, $u_n(x)$ を求めよ.

[答] $u_n(x) = \sum_{k=1}^n kx^{k-1}$